




わたぼうし家族会だより

2017年 第2号



桜の木はすっかり葉桜になってしまいましたが、春の日差しや色鮮やかな草花によって、目に映る景色全体が明るくなってきました。寒さで縮んでいた身体や気持ちが開放的になったように感じ、自然と外に出かける回数が増えたように思う今日この頃です。まだまだ日中と夕方の気温の差があります。季節の変わり目、体調には気を付けたいものです。



認知症の人の世界とは…？

今回は「認知症の人の世界を理解しよう」をテーマに、認知症の人の理解しがたい行動について、本人はどのような気持ちでその行動を起こしているのか、またその行動に対する介護者側の対応の仕方や考え方について資料をもとに学習しました。認知症の人は、長年住んでいる自宅を「我が家じゃない」と言い出す、自分の家族をみて「あなたは誰？」と尋ねる、とっくに定年しているのに「仕事に行く！」ときかない、トイレ、入浴、着替えなどの特に意識しなくてもできるような行為が出来ない…私たちの中での常識が通用しない、理解しがたい行動が時々見られます。認知症の人に例外なく現れる記憶障害。出来事の全体をごっそり忘れてしまったり、体験したことを瞬時に忘れてしまったりします。また、“新しい記憶から順に忘れていく”という特徴があります。徐々に記憶が^{さかのぼ}遡っていく認知症の人にとっての“現在”は、“最後の記憶の時点”を指します。つまり、本人の中で残っている記憶の最後の時点が20代であれば、その人は今20代の時を生きていると言えます。よって、実際ご本人は80代で60代の



息子がいたとしても、20代ごろの記憶の中で生きている本人にとっては「息子はまだ小学生」なので、中年のおじさんを息子だとは思えず、『どなたですか?』ということになります。また、物事を順序だてて計画的に行うという、本来なら無意識に行っていることがうまく出来なくなったり、私たちの目に映る物(人)が認知症の人には同じ物(人)認識できなくなったりしていることがあります。このような症状をもった認知症の人の世界を想像したときに、まず思うのは「いつも不安だろう」ということです。自分の持つ感覚や思いを相手が理解してくれず、否定ばかりされたら自分ならどうか…と考えてしまいます。そして忘れてはいけないのが、認知症の人の感情の営みは私たちと同じということです。日々の介護で気持ちの余裕がなくなるのは当然のことですが、時々、認知症の人の見ている世界を想像してみるのもいいかもしれません。

家族のことを思い浮かべながら
学習されていました。



次回のご案内

下記の予定で開催します。
詳細は後日ご案内します。



日時: **2017年 7月 8日 (土)**
12:30 ~ 14:30



※第3土曜日が連休にかかる為、次回は第2土曜日に開催となっています。